協育NEWS

「協育」という波紋を拡げます

会報誌第37号
2019年12月25日発行
発行：NPO法人 大分県「協育」アドバイザーネット

コンサルタント活動から見えてきた「地域学校協働活動推進の課題」

中川 忠宣　理事長（文科省事業）地域学校協働活動推進コンサルタント委員

文部科学省は、地域と学校の連携・協働を通じて社会総掛かりでの教育を実現することにより、「学校を核とした地域づくり」を全国各地で推進することを目的に、「すべての小中学校区において地域学校協働活動を進める。」「学校運営協議会制度をすべての公立学校に導入する。」こととし、平成30年度からコンサルタントを各地域に派遣し、継続的・組織的な地域学校協働活動の実施を推進する取組を行っており2年目を終わりました。今年は上原理事と2人で長崎県、熊本県、佐賀県、大分県を担当して、10市町村へのコンサルタントを行いました。

市町村への訪問を通して、この取組の現状と課題について、以下のような内容に整理することが出来ました。①コミュニティ・スクールの導入の目的の明確化とプランの作成について、②コミュニティ・スクールの導入による学校の多忙化について、③学校運営協議会委員への説明、教職員への周知について、④「学校運営の基本方針を承認する」ことについて、⑤地域学校協働本部の役割と体制整備について、⑥一体的な推進のための学校教育と社会教育部門の教育委員会内での推進体制について、等々です。こうした課題について訪問市町村の現状を基にして、地域に必要な取組を行う方法や体制づくりについて一緒に考える機会となりました。

こうした内容については2月29日（土）に開催します「第13回地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会」（「協育」ネットホームページに掲載）において、「課題解決の具体的なアイディア」を含めてお話しすることとしています。会員の方々はもちろん、会員の方が関わっている学校や地域の方々を誘って参加していただくことをお待ちしています。

大分県少年の船は40周年を迎えました

12月15日（日）「大分県少年の船」40周年記念大会に参加してきました。

大分県が全国に誇れる少年の船事業は参加した全ての子ども達に多くの体験と経験を与え続けてきました。団員だけでなくそれをお世話する班長（高校生）・副班長（中学生）・リーダーや実行委員にも多くの学びの場となっています。今回は今まで関わってきた皆さんを交えて次の50年、60年とこの事業を継続していくためにはどうしたらいいかなどを話合いました。会場には高校生や中学生の参加者も多く熱心に登壇者の話を聞いていました。

北見靖直さんの基調講演では「現代社会における青少年教育の必要性と少年の船」と題してお話がありました。少年の船のキーワードは　つながる　子どもたち1人1人にスイッチがある！それに気づかせる4泊5日の心の旅でもあると、確かに沖縄旅行ではない集団で4泊5日の船上生活をすることでいろんなものに気づき見えてくるものがあります。子ども達にはかけがえのない時間となるでしょう。これからもこの事業が継続してほしいなと思います。

会員さんの活動紹介

今回の会員紹介は林浩昭先生です！　林さんは東国東地域デザイン会議の会長さんで地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会の運営委員長です。林さんの日頃の活動と故郷を想う思いを聞いてみました

林　浩 昭　（国東半島宇佐地域世界農業遺産推進協議会 会長）　（4期生）

私は、国東半島の山間部の原木乾シイタケ生産農家の長男として、1960年に生まれました。地元の大分県立国東高等学校を1979年に卒業してから2003年まで東京で生活しました。その間、1985年から2003年までは大学の研究者として、植物栄養肥料学（植物がどのような養分を吸収し、そのようにして成長していくかを解析したり、効率的な肥料を開発したりする研究分野）の基礎研究に没頭しました。特に研究したことは、イネ葉で合成された糖やアミノ酸などが植物体内をどのように動いていくかの研究です。理科の教科書では篩管・道管というのが出てきますが、その篩管の中に何が流れているかを調べる研究でした。トビイロウンカというセミのような5ミリくらいの小さな虫は、口唇（こうしん）をイネ葉の篩管に刺して篩管内を流れる液体をいつも吸っている昆虫です。この虫の口唇にレーザー光線を照射してパシッと切る、そして、その切り口から吹き出してくる篩管液を集め分析し解析するいう研究です。つまり、植物の"血液"採取と分析、それが私の研究でした。

2004年（43歳）に国東半島に帰郷し、それ以降、米と原木乾シイタケを自身で生産しています。教育関連では、大分県の教育委員を10年以上、今も継続させていただいています。また、2012年からの国東半島宇佐地域世界農業遺産の申請活動に参加し、2013年に国連の食糧農業機関から認定後は、その推進協議会の会長として保全活動に積極的に関与しています。

今特に力を入れていることは、世界農業遺産に認定された国東半島宇佐地域の農林水産循環システムを、地域の子どもたちと見つめ直し次世代に継承していく活動です。子どもたちは、地域のことを学べば学ぶほど、家族や地域の人たちが行ってきた一次産業の営みが世界に認められたことに驚きます。そして、生計の保障、地域の結びつき、農業用水を公平に使う技術の継承、景観の保全、生物多様性の保全など世界農業遺産の取り組みを理解しながら、今生きている国東半島宇佐地域が抱えている様々な問題が、地域規模の問題にも直結していること理解していきます。

若い世代がこの地域の抱える様々な問題の解決に加えて、世界的課題、例えば地球温暖化防止などにも果敢に挑戦できるようになってほしいと、私は、この活動を実施しながら切に願ってます。

※林さんのHPはこちらから　はやしファーム　　http://www.oct-net.ne.jp/shikaneki/

事務局よりお知らせ

第13回 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会のご案内

テ　ー　マ　　地域と学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりを語ろう
～地域学校協働本部とコミュニティ・スクールの一体的な取組みを目指して～
主　　催　　東国東地域デザイン会議／大分大学高等教育開発センター
NPO法人大分県協育アドバイザーネット
会　　場　　「梅園の里」（国東市安岐町富清2244）☆梅が咲き誇る三浦梅園生誕の地～☆
期　　日　　令和2年（2020年）2月29日（土）

- 10:00～10:20　開会行事
- 10:20～12:10　第1部 地域での実践活動の発表
- 13:00～16:30　第2部 地域と学校が協働して子どもを育てる仕組みづくりを考える
- 17:00～　情報交換会＜朝まで語ろう「私の活動･･･」＞

2019年度NPO法人大分県協育アドバイザーネット第3回理事会報告

協議題

(1) HPに掲載する「会員紹介」の原稿の募集について
(2) 第13回地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会の企画について
(3) 「おおいたNPO応援フェア」～よりよい社会をめざして～への参加について
①NPOスキルアップセミナー（12月7日13:30～16:30）
②おおいたNPO/県民フォーラム（12月10日13:30～16:40）

※主催・共催事業の進捗業況および現在の予定状況について

事業1. 人材育成研修事業（安達）
①地域発「活力・発展・安心」デザイン実践交流会の企画運営（2月末:国東市梅園の里）
②生涯教育研究実践交流会への参加（5月:福岡県篠栗）
③研修会を開催する

事業2.「協育」に関する指導者養成事業（安達）
①大分大学学習ボランティアサークルの支援

事業3.「協育」プログラム開発事業（中川・安達）
①「協育」プログラムの資料作成（3カ年計画）
② 先進地研修によるプログラムの開発
③ 別府溝部学園短期大学温泉コンシェルジュのコースの支援

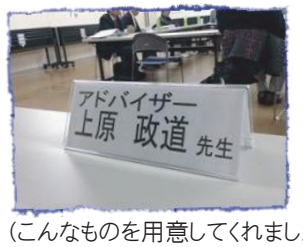
（理事会の様子）

事業4.「一人1情報の発信運動」の推進事業（上原）
① 会員への訪問取材し、資料収集活動
③ 会及び会員の活動情報の発信（会報の発行・ホームページの更新）

5. 第3回の企画会議について･･･1月（メール審議）

広報部よりお知らせ

10月・11月に中川理事長のアシスタントで熊本・佐賀・長崎のCSコンサルト業務に同行してきました。
各県の導入に関していろんな悩みや問題があることが分かり勉強になりました。
今回の第13回 地域発『活力・発展・安心』デザイン実践交流会第二部ではCSコンサルタント業務から見えてきた問題解決のアイディアや～Q＆A～もあります。協育ネット会員の皆さんの日頃の活動のヒントになるのではないかと思います！　ぜひ2月29日梅園の里に集まりましょう～　(*^_^*)



（こんなものを用意してくれました）